



校報 あずまね

<https://shiwa3.chu.jp>

時間啄啐

文責 佐藤智一

6月10日(金) 春のあずまねカフェに向けて



先週末にあったちょっとした出会いを2つ紹介します。

まず、先週土曜日に東根山の山開き登山に行ってきました。着任してから毎日目にしてきた山なので、ようやく願いが叶いました。所属した班のガイドさんは、偶然にも紫波三中の卒業生で森林インストラクターをしている岡田菜月さんという方でした。アウトドアのお仕事を楽しまれている様子で、素敵なウェアとリュックが気になり、どこで購入されたか聞いてみたら、オガールのスポーツショップ「ノッティ」でオーダーメイドしたものとのこと。人と同じものではなく、一点ものを持つことへのこだわりが感じられ、カッコいいなと思いました。山頂について、眼下に広がる紫波の平野の中から三中の校舎を探したところ、上平沢の家並みの中に校舎の特徴である二つの三角屋根を見つけることができました。この時も、他には無い目立つ特徴があるっていいことなんだなあと、改めて思いました。

次に、山を降りた後、ラフランス温泉館から程近いビューガーデンでやっていたクラフト市「ポラーノまつり」に行ってみました。県内外の60もの工房が工芸品を持ち寄るイベントです。私は工芸も大好きなので、心惹かれる作品との出会いに期待して、会場を見て回りました。ここでも他にはない個性が、商品の魅力や価値につながります。しばし見てまわると、真っ白い陶器が目にとまりました。クラフト市の良いところは、作家さんと直接お話ができることです。「すべすべした手触りの綺麗なお皿ですね」と声をかけてみると、山形県酒田市から来たアトリエシマシマの東海林志津さんは、「赤ちゃんの肌のような質感を目指したので、Baby White と名付けたんです。」と答えてくれました。なるほどと納得させられ、ますます気に入り、何個かまとめて買って帰りました。夕食で早速使ってみたら、真っ白い器の中で食材が引き立ち、一段と気持ちが上がりました。長く大事に使いたいなと思いました。

作り手にとっては、人に喜んでもらえる仕事をするのが本望です。工芸ばかりでなく、世の中の仕事はみんな、そこにつながっているのではないかと思います。今週末の「あずまねカフェ」に来てくれる20名のゲストティーチャーも、それぞれの仕事を通じていろんなことを目指されているに違いありません。当日は、それぞれの人が本気でやっていることの一部をお話いただけます。生徒たちにとっては、そこにどんな面白さややりがい、働きがいを見つけて取り組まれているのかを質問し、人それぞれの生き方や人となりを探ってみるまたとない機会です。そこにはきっと、その人の情熱や没頭していること、人との出会い、目的意識や使命感を見出すことができると思います。それは将来、皆さんにも是非とも見つけて欲しいことです。「あずまねカフェ」での対話が、そんな生き方のヒントをつかむ機会になれば良いなと思っています。